

郷土資料館だより

Vol.36 No.3
2013.3.1

耐震補強・改築工事進捗状況

郷土資料館は耐震補強及び改修工事のため、平成24年10月1日から全館休館となり、リニューアルオープンは平成25年11月1日を予定しております。休館中は市役所中央町別館第5会議室が仮事務室となっています。

そして12月1日、いよいよ耐震補強工事が始まりました。郷土資料館の周りを安全柵で巡り、仮囲いが施され足場で囲われた後、既存施設の解体作業及び庇の解体が行われました。壁や天井などの内部内装材が取り払われ、柱と天井の骨だけが残った状態となっております。

改築工事の方は、12月に各コーナーのイメージやテーマを具体的に固め、おおまかなプランが決まったので、それぞれの制作図作成を行っております。今までの展示型博物館から体験型博物館へのリニューアルに向け、どのような資料を実際にご覧いただき、それにどのような解説をつけるか、日々検討しております。

子どもには新しい発見や楽しさを見つけてもらい、大人にはどこか懐かしさを感じていただけるような博物館になるよう、意見交換を行いながら作成しておりますので、郷土資料館リニューアルオープンの際は、是非とも多くの方に足をお運びいただきたいと思います。

そして少しですが、リニューアルオープンで新しく登場する展示物を紹介いたします。

「青木原遺跡出土小銅鐸」

この小銅鐸は青木原遺跡の御殿川の旧流路から出土したもので、弥生時代後期（2世紀末）から古墳時代前期（3世紀後半）に作られたものです。

高さ12.6cm、最大幅6.9cmと小さなものですが、青銅製で吊り手と鱗の文様帯や身の縦帯と横帯の表現、型持孔などから突線鈕式銅鐸の小形品、あるいは模倣品と見なされます。銅鐸を鳴らすための棒状の「舌」は出土しませんが、裾の内面に突帯が巡らされていますので、音を鳴らすことができたことがわかります。このような小銅鐸は国内では40例ほどしかない大変珍しいもので、静岡県内では7例が知られていますが、この中で最も大きく保存状態の良いものです。河川に関わる祭祀で埋納された可能性が考えられます。

銅鐸は弥生文化の代名詞と言えるぐらい有名な青銅器です。表面に描かれた文様や絵画から、実用品ではなく農業に関わる祭やまじないに用いられたと考えられています。中には抱えきれないぐらい大きいものもあり、吊り手の幅の広いものが新しいという傾向が分かっています。しかし、小銅鐸は高さ10cmほどで、大きさが極端に異なります。土坑に埋納されることが多い銅鐸と異なり、墓に副葬品として埋められている例や住居跡から出土する例が多いことから、銅鐸とは使われ方が違っていたようです。

郷土資料館のリニューアル展示では、大変貴重な出土品なので、小銅鐸を所蔵している静岡県埋蔵文化財センターより借受け、レプリカを作成して展示することにしました。



「豆州君沢郡中島之郷御縄打水帳」（中島 落合家文書）



近世初期には有名な太閤検地をはじめとして各地で検地が行われ、村単位で耕地面積や耕作者が把握されていきました。伊豆国は戦国時代は後北条氏の支配下にありましたが天正十八年（1590）に豊臣政権に敗れた後、関東の国々と共に徳川家康の支配地となりました。家康は転封の年から支配各地の検地を始めており、伊豆ではこの年のうちに大規模な検地が行われています。徳川氏にとって新たな支配地であり、かつ、小田原戦役で非常に荒廃したこの地の農村・農民の実態を把握することは喫緊の課題だったのでしょう。

この検地帳は11月以降、3階通史展示「江戸時代」コーナーで展示する予定です。

「^{しょうか}薔花女学校規則」（花島家文書）

明治時代、三島の町にキリスト教の学校がありました。

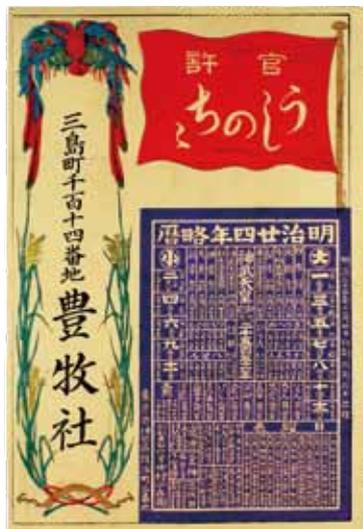
明治21年（1888）現在の三島市役所北側に、土地の所有者花島兵右衛門が、家業の酒造業をやめ、酒蔵を洋風の教会に改築し1階を礼拝堂に、2階を「薔花女学校」（通称：バラ女学校）として設立しました。教科は、国語、漢文などの他はすべて英語で行われ、アメリカ人教師が着物に白い前掛けを付けた女生徒達を引率し散歩をする姿は、当時の三島でたいそう評判だったようです。経営難でわずか4年間で閉校となりましたが、三島の町に欧米文化をもたらした第一歩といえるのではないのでしょうか。



この史料は、花島家文書にある「薔花女学校規則」の下書きです。第一条学歴、第二条学校課程、第三条入退学の規則、第四条生徒心得罰則など、第五条生徒費用が記されています。

こちらは、11月以降、3階通史展示「近世 教育」コーナーで展示する予定です。

「豊牧社曆」（花島家文書）



江戸時代、暦の出版は幕府により厳しく統制されていましたが、明治時代になり一枚刷りの暦の出版が自由化されると、商店や商品の名前を入れた広告暦が大流行しました。

これは明治18年に花島兵右衛門によって三島に開設された牧場「豊牧社（舎）」の広告暦で、明治22年のカレンダーです。「うしのちち」と書いてある通り、豊牧舎では牛乳を販売していました。当時は日常的に牛乳を飲む家庭は少なく、広告暦で知名度を上げる作戦だったのでしょうか。この後兵右衛門は余った牛乳を活用するため練乳製造を始め、花島煉乳場^{れんにゅう}で製造した「金鷄^{きんし}ミルク」は軍隊御用達になるなど大ヒットしました。豊牧舎に関する史料はあまり残されておらず、貴重な一品といえます。

11月以降、3階通史「近代 産業」コーナーで展示する予定です。

平成24年度 第2回郷土資料館運営協議会

- **と き** 平成25年 2月13日(水)
 - **と ころ** 三島市役所中央町別館 2階第6会議室
- 郷土資料館には館の円滑な運営を図るため、郷土資料館運営協議会が設けられています。今年度第2回郷土資料館運営協議会では、耐震補強事業進捗状況の報告及び平成24年度郷土資料館事業経過報告が行われました。特に耐震補強事業進捗状況の報告では、展示制作の途中経過資料を見ながら今まで視察で培ったことを元に、様々なアイデアをいただきました。その他、郷土資料館の運営等について意見や助言をいただきました。それらを参考にしながら館職員の資質向上に努めてまいります。



ふるさと講座「ジオパーク探訪」報告

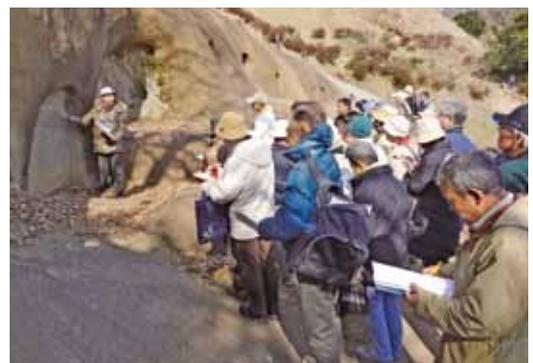
- **開催日時** 平成25年 2月23日(土) 午前9時～午後3時
- **講 師** 静岡県地学会東部支部長 増島 淳先生
- **見 学 地** 伊豆半島ジオパークに登録された函南エリアのジオサイト3ヵ所
(丹那盆地：丹那断層公園、田代盆地：火雷神社、柏谷：百穴)、大井凝灰角礫岩の石倉と石切り場、第三紀の貫入岩体
- **参 加 者** 30人

今回の講座は、今年度から3ヵ年にわたり開催する伊豆半島ジオパークについての講座の第1回目で、函南エリアのジオパークなどを見学しました。平成24年9月24日に伊豆半島ジオパークが日本ジオパークに認定されたことを受け、応募者が定員の倍以上になり抽選を行う予想外の申し込みとなりました。

当日は、冬の冷たい空気に暖かい日差しと天候に恵まれ、静岡県地学会東部支部長の増島先生の案内のもと、多くの質問が出るなど、皆さんとても熱心に説明を聞いていました。参加者の皆様からは「近くにこんなに貴重な地質学ポイントや史跡があることに驚きました。地学と歴史の説明が分かり易く、ますます興味がわきました。」「第三紀の岩脈群、石切場等、普段では訪れない場所に行くことが出来て勉強になりました。改めて地元其自然や地形を知る機会に恵まれてよかったです。」「現地では本物を見る。そして資料と先生方の説明でさらに身近なものに感じられました。素敵な時間でした。」「丹那の歴史や岩石を生活に利用していることが印象に残りました。」など大変好評でした。来年度は、5月に沼津エリアを巡る講座を実施する予定です。



丹那断層公園



柏谷公園

郷土教室・ボランティア活動報告

郷土資料館でおこなっている子ども向け体験メニュー「郷土教室」と、ボランティアスタッフの活動について報告します。

平成24年11月11日(日)は、「楽寿園の自然」体験デーとして、ボランティア「楽寿園グループ」と一緒に園内で採取した葉っぱを使ったモビール作りと溶岩の観察を行いました。

葉っぱのモビール作りは子どもに、溶岩の観察は大人に人気があり、幅広い年齢の方に楽寿園で観察できる自然を楽しみながら学んでもらうことができました。同日はボランティア「伝承あそびグループ」によるメンコ作り・メンコ遊びも行い、初めてのメンコ遊びをたくさんの子どもが楽しんでいました。

平成25年1月27日(日)は、講師に吉田秀夫さんをお迎えし、ボランティア「まなびグループ」と一緒に「わら細工を作ろう」を行いました。わらを編んでリースにし、飾り付けてもらうイベントです。機械で刈り取った稲は短すぎてわら細工には使えず、今ではわら細工の技術を伝えるにもわらを手に入れることさえ難しくなっています。参加した子どもたちの中には初めてわらを触るといふ子どもも多くいましたが、みんな自由に飾り付けを楽しみ、自分だけのオリジナルリースの完成を喜んでいました。

来年度も楽しく学べる体験イベント、郷土教室を毎月開催予定です。詳しい内容が決まり次第ホームページ等でお知らせします。みなさんのご参加をお待ちしています。



園内の葉っぱを使ったモビール作り



メンコ作り体験



わらでリース作り体験



できたリースにかざりつけ

平成25年度の予定

- 郷土教室 5月以降、毎月第2日曜日開催（内容は決まり次第ホームページ等でお知らせします）
- ふるさと講座 5月18日(土) 伊豆半島ジオパーク探訪—沼津エリア
10月5日(土)※予定 駿東・伊豆の古墳探訪
- 三島市郷土資料館リニューアルオープン
11月1日(金) オープニングセレモニーや各種イベントを予定しています。

伊豆半島ジオパーク構想 Vol. 7

前回に続き「御殿場泥流」の話です。約2.9千年前、富士山東斜面の大崩壊が原因で発生した御殿場泥流は、三島溶岩流と同様に黄瀬川谷を流下しました。しかし三島溶岩流末端の溶岩塚群（Vol. 5 参照）からなる「小浜山」（三島北高・三島駅・楽寿園）の高まりを乗り越えられず、二手に分かれ、大場川及び小浜山と長泉町の溶岩塚群との間を流れました。そのため楽寿園を含む小浜山一帯には泥流が堆積していません。泥流は楽寿園南側で合流し、三島市街地を覆いました。

御殿場泥流は、地表直下に堆積しているため、その後の湧水河川（御殿川・四ノ宮川・境川）の浸食や用水路掘削（源兵衛川・小浜用水）などにより、多数の巨石が地表に露出しました。

三島市内の神社やお寺の境内には、角は取れているが丸くはなく、三島溶岩のように発泡していない、暗灰色の大きな玄武岩質の石が無造作に置かれているのをよく見かけます。これらの巨石は、河川敷や用水路から運び出されたか、直接地表に露出した御殿場泥流を構成する岩石で、大部分が崩壊した古富士火山の溶岩です。

巨石の中には礎石として利用されているものがあります。伊豆国分寺や市ヶ原廃寺の塔礎石、林光寺や福聚院の石碑の礎石等です。

目立つので名前が付いているものもあります。「三島七石」の「耳石・耳石神社」、「市子石・広小路」、「蛙石・楊原神社」（境内表示板横の石ではなく東側の巨石）、「崇り石・三嶋大社」、「蛇石」（現在所在行方不明、旧茅町の境川沿いにあった事から境川から出土した御殿場泥流中の石と推定）などです。その他、三嶋大社の「牛石」、桜川の「大社の米とぎ石」、現在は同定できませんが三ツ石神社のいわれとなった「三ツ石」などもそうです。

三島市内には至る所に御殿場泥流の巨石が存在します。皆さんも新たな視点で市内散策を楽しんでください。

（増島淳／三島市郷土資料館運営協議会委員）



伊豆国分寺・塔礎石（伊豆国分寺）



市ヶ原廃寺・塔礎石（祐泉寺）



三島七石「耳石」（耳石神社）



三島七石「蛙石」（楊原神社）

寄贈資料の紹介

平成24年7月から平成25年2月までに、次の方々から寄贈のご協力をいただきました。ありがとうございました。

三島市環境市民部市民課	和文タイプライター 1点
三島市 渡邊宗泰氏	唐箕 1点
三島市社会福祉協議会	ラジカセ 1点 和文タイプライター（付属品付） 1点 映画チケット 1点
三島市 —	『徳川幕府県治要略』 1冊
三島市 藤池康義氏	三島宿関係文書、藤秀館製糸場関係文書ほか

『徳川幕府県治要略』 安藤博編 大正4年刊

徳川幕府の直轄地での民政の概要を記述した本で、江戸時代に役人であった編者が当時の同僚らの協力を得て書いたものです。左は検地の様子で、当時の行政の様子が絵入りで詳しく解説されています。この資料はリニューアル後の展示で活用する予定です。



刊行物近刊のお知らせ

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 『三島市郷土資料館研究報告6』平成24年度3月末刊行予定 | 頒布予定価格 800円 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 近代中等教育と地方行政～明治・大正時代の伊豆国を事例として～ ● 花島家文書所収 花島兵右衛門宛仁田常種書簡について ● 三島宿高木伊三郎がみた維新騒動 一箱根戦争について ● 中 鈴木家文書 年貢割付帳の整理について ● 「ジオツアー三島宿」の成果(2)―ジオサイト楽寿園・三島市内の石造物― | 桜井祥行
笹山曜子
大川裕代
平林研治
増島 淳 |
| 『落合家文書目録』平成24年度3月末刊行予定 | 頒布予定価格 1,100円 |
| 『三島宿関係史料集6』平成24年度3月末刊行予定 | 頒布予定価格 600円 |

【編集後記】 閉館と引越し準備にあわただしかった24年度が終わりに近づき、リニューアルの準備に追われる毎日です。みなさんに楽しんでいただける資料館をめざして、職員全員でがんばっています。

利用案内

- 〒411-0036
静岡県三島市一番町19-3
楽寿園内
- 入館無料
(但し、楽寿園入園の際に有料)

平成24年11月1日～平成25年10月31日まで耐震補強・リニューアル工事のため閉館しております。閉館中は右記仮設事務室までご連絡ください。

● 三島駅(南口)から徒歩5分。
市立公園楽寿園内

郷土資料館だより vol.36 No.3 (第105号)

発行日 平成25年(2013)3月1日
(年3回発行)

編集 三島市郷土資料館
〒411-8666 静岡県三島市中央町5-5
市役所中央町別館2階
TEL 055-971-8228
FAX 055-976-2735
(平成25年9月までの仮事務所となります。)

E-mail: kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
URL: <http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/>
発行 三島市教育委員会